

# 高エラー配信強制中止機能

2012年9月に一部のシステムにおいて、ユーザー様が管理する宛先不明を多く含むリストに対してメールが送信されたことにより、メール受信側から受信ブロックを受け、他ユーザー様の配信に遅延が発生いたしました。

この背景を受けて、2013年7月以降「高エラー配信強制中止機能」を適用し、宛先不明アドレスを大量に含むリストへの配信が行われた場合、スパイラルが配信を強制的に中止し、他のユーザー様に影響を及ぼすプロバイダからの受信ブロックを未然に防ぐ機能を実装しております。

## 目次

<b>1. 高エラー配信強制中止機能とは</b> .....	p.2
(1) 高エラー配信強制中止機能について .....	p.2
(2) 機能詳細 .....	p.3
<b>2. 高エラー配信強制中止通知について</b> .....	p.4
(1) 高エラー配信強制中止通知先設定 .....	p.4
(2) 高エラー配信強制中止通知先参照 .....	p.4
(3) 高エラー配信強制中止通知メールサンプル .....	p.5
<b>3. エラーメンテナンス方法のご案内</b> .....	p.6
(1) 配信リストを常にスパイラルのDBに格納しているケース .....	p.6
(2) 配信の度に配信リストをDBにインポートするケース .....	p.6
<b>4. 配信が強制中止された場合の再送方法</b> .....	p.8
(1) STOPDBを利用し、再送する方法 .....	p.8
(2) DBにフラグを立てた上で再送する方法 .....	p.9
<b>5. 配信が強制中止された場合の再送方法 ～エラー情報を取得していない場合～</b> .....	p.10
(1) リスト分割について .....	p.10

# 1. 高エラー配信強制中止機能とは

宛先不明アドレスを大量に含むリストへの配信が行われた場合、他のユーザー様にまで影響を及ぼすプロバイダからの受信ブロックを未然に防ぐため、スパイラルが配信を強制的に中止する機能です。

## (1) 高エラー配信強制中止機能について

宛先不明アドレスを大量に含むリストへの配信が行われた場合、SPIRALが配信を強制的に中止し、キャリアブロックによる制御を未然に防ぎます。その結果、クリーンなリストへの配信はキャリアブロックの影響を受けずに配信が行えます。



## (2) 機能詳細

機能	配信通数が一定規模以上のEXPRESS、EXPRESS2配信について、配信リストの一部をモニタリングし、配信エラー率を検査する。この配信エラー率が当社規定の閾値を超えた場合に、プロバイダからの受信制限を回避することを目的に配信を強制停止する。
対象	EXPRESS 配信登録、EXPRESS 2 ※SEQUENCE 配信登録、 THANKS 配信登録、 TIMELY配信登録は本機能の対象外です。
配信が強制中止された場合	<p>1) 通知 ご利用管理者様、CC1、CC2、担当者IDとして登録されているアドレス宛に配信が強制中止された旨通知されます。 その他、任意に指定したアドレス宛に通知されます。（『高エラー配信強制中止通知』）</p> <p>2) ステータス 配信設定一覧において、当該配信のステータスは「高エラー配信強制中止」と表示されます。 ※スパイラルAPIのdeliver_express2/list/response/headerにて取得するステータスは、「6:高エラー配信強制中止」となります。</p> <p>3) 配信ログ 頭文字が『r』のファイルに強制中止が発動するまでに配信されたアドレスが記録されます。 そのうち、エラーとなったアドレスは 頭文字が『e』のファイルに記録されます。 同様に、頭文字が『c』（クリックカウントログ）、『w』（HTML開封チェックログ）、『o』（オプトアウトログ）についてもそれぞれ該当する場合は記録されます。</p>

## 2. 高エラー配信強制中止通知について

高エラー配信強制中止が発生した場合、通知メールが送られます。

### (1) 高エラー配信強制中止通知先設定

高エラー配信強制中止が発生した場合のみ、通知メール受信設定メニューに登録されている宛先に加えてこちらに登録したアドレス宛に通知されます。

※最大10件まで登録が可能です。

**配信共通設定**

**■ 高エラー配信強制中止通知**

- ・高エラー配信強制中止が発生した場合のみ、通知メール受信設定メニューに登録されている宛先に加えてこちらに登録したアドレス宛に通知されます。
- ・ユーザー様自身で配信中止ボタンをクリックした場合や配信終了ステータス時には通知されません。
- ・最大10件まで登録可能です。

通知先メールアドレス 入力欄を追加する

test@aaa.co.jp	クリア
test@bbb.co.jp	クリア
test@ccc.co.jp	クリア

### (2) 高エラー配信強制中止通知先参照

EXPRESS 配信登録およびEXPRESS2 配信画面での通知先の参照が行えます。

#### ・EXPRESS 配信登録

**EXPRESS2**

**基本設定**

DB (必須) 新しいDB

メール形式 (必須)

- テキストメール 【PC,携帯】
- HTMLメール 【PC】
- マルチパートメール 【PC】
- ケータイメール(検文字対応) 【携帯】
- デコメール 【携帯】

選択

**高エラー配信強制中止通知**

通知先メールアドレス test@aaa.co.jp  
test@bbb.co.jp  
test@ccc.co.jp

配信共通設定

#### ・EXPRESS 2

**EXPRESS 配信登録**

**高エラー配信強制中止通知**

通知先メールアドレス test@aaa.co.jp  
test@bbb.co.jp  
test@ccc.co.jp

配信共通設定

**EXPRESS設定**

### (3) 高エラー配信強制中止通知メールサンプル

■件名：【スパイラル】高エラー配信強制中止のお知らせ

■本文：

---

スパイラル  
高エラー配信強制中止のお知らせ

---

株式会社パイブ商事  
営業部

本メールはスパイラルの「通知メール受信設定」メニューに登録されている宛先と、「高エラー配信強制中止時通知先」にて指定したメールアドレスに通知しています。

以下のメール配信は、宛先不明メールアドレスへの配信によるエラーを大量に検知したため、配信を強制中止しました。

配信リストのクリーニングを実施後、再度配信をお試しください。

▼再度配信される場合は以下をご確認ください。

[http://www.pi-pe.co.jp/help/high\\_error\\_rate\\_abort2.pdf](http://www.pi-pe.co.jp/help/high_error_rate_abort2.pdf)

▼リストクリーニングサービスのご用意もございます。

[http://www.pi-pe.co.jp/help/high\\_error\\_rate\\_abort3.pdf](http://www.pi-pe.co.jp/help/high_error_rate_abort3.pdf)

ご利用の際はユーザーズデスクまでお問い合わせください。

=====  
中止時刻: 2013-09-10 12:01:16 JST  
配信処理開始時刻: 2013-09-10 12:00:00 JST  
配信数: 214560  
ご利用管理者: パイブ 太郎  
配信スタイル: EXPRESS  
スプール完了日時: 2013-09-10 11:50:00 JST  
配信ルールID: #308449  
※1 サブジェクト: メールマガジン (需要顧客用)  
(封筒名): メールマガジン～あなただけに特別なお知らせ～  
配信予約日時: 2013-09-10 12:00:00 JST  
配信予約レコード: 220000

▽リスト情報 ※2

DBテーブル: メールマガジンDB

抽出ルール: 重要顧客のみ抽出

STOP DB テーブル: --

オプトアウト除外: 「オプトアウト: stop」のオプトアウト者を除外  
配信エラー反映: 「エラーカウント」に自動反映

エラーの除外: 恒久的なエラーが「3」回以上を除外  
(5番台の回数指定)

=====  
本メールの内容にご不明な点がございましたら、御連絡下さい。

---

株式会社パイブドピッツ  
[support@pi-pe.co.jp](mailto:support@pi-pe.co.jp)  
<http://www.pi-pe.co.jp/>

---

### 3. エラーメンテナンス方法のご案内

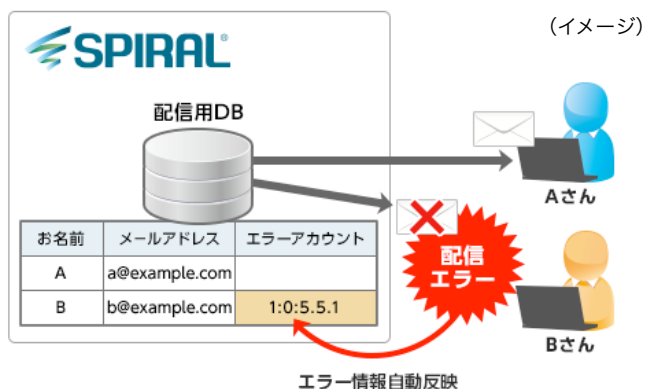
普段の配信において、継続的にメールアドレスリストのメンテナンス対応をお願いいたします。

#### (1) 配信リストを常にスパイラルのDBに格納しているケース

スパイラルでは、自動的にエラーメンテナンスできる機能をご用意しております。

スパイラルを使用して配信リストの管理を行っている場合、配信を行った際に発生した配信エラー情報を自動でデータベースに反映させることができます。

また、配信エラーが発生しているメールアドレスに対しては配信を行わないようにすることができます。



#### ・設定方法

- 1) DBにエラーカウントフィールドを設置してください。
- 2) メールグループのEXPRESS 2またはリスト作成で、[リスト作成]の[配信エラーフィールド]を指定し、[配信エラーログをDBに自動反映する]にチェックを入れてください。
- 3) [恒久的なエラーが3回以上を除外する]にチェックを入れてください。  
これにより過去にエラー判定されたメールアドレスを配信対象から除外します。

詳しくは、スパイラルオンラインヘルプマニュアルの「エラー情報を自動で反映する方法 (PDF)」をご確認ください。

[http://www.pi-pe.co.jp/help/manual/ez\\_mail-err-auto-reflect.pdf](http://www.pi-pe.co.jp/help/manual/ez_mail-err-auto-reflect.pdf)

#### (2) 配信の度に配信リストをDBにインポートするケース

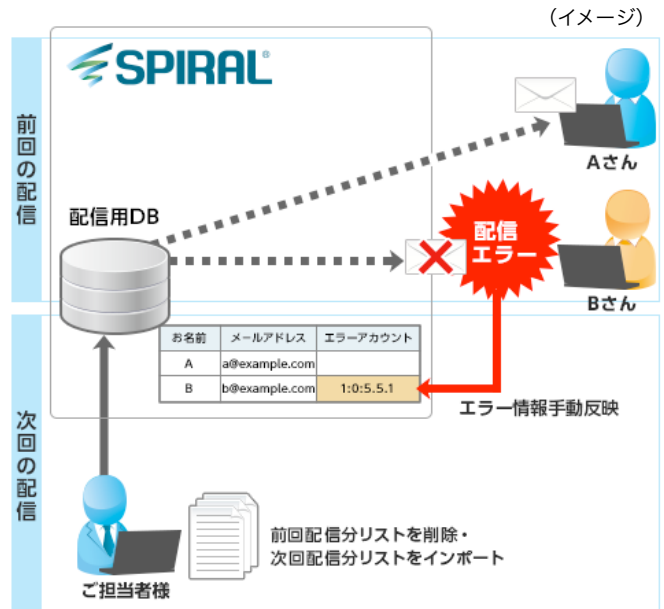
配信の度に配信リスト（配信エラー情報を除く）をスパイラルのデータベースにインポートし、配信後に削除している場合、  
a) 前回以前の配信エラーの情報を次回配信するリストに反映させる/b) 前回以前の配信エラーの情報をダウンロードし、次回配信するリストに反映させる/c) 配信エラーの情報をSTOPDBに自動反映させることができます。

また、配信エラーが発生しているメールアドレスに対しては配信を行わないようにすることができます。

a) 前回以前の配信エラーの情報を次回配信するリストに反映させる

詳しくは、スパイラルオンラインヘルプマニュアルの「配信ログからエラー情報を反映する方法 (PDF)」をご確認ください。

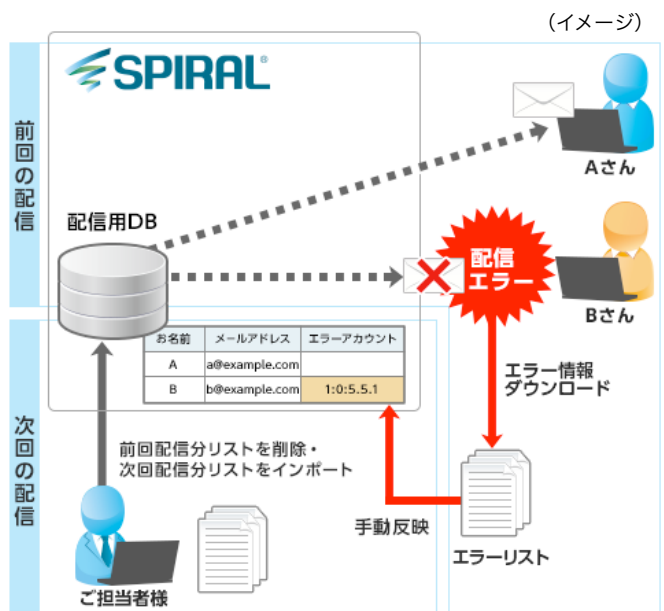
[http://www.pi-pe.co.jp/help/manual/ez\\_mail-err-reflect-log.pdf](http://www.pi-pe.co.jp/help/manual/ez_mail-err-reflect-log.pdf)



b) 前回以前の配信エラーの情報をダウンロードし、次回配信するリストに反映させる

詳しくは、スパイラルオンラインヘルプマニュアルの「手元にあるエラー情報をDBに反映する方法 (PDF)」をご確認ください。

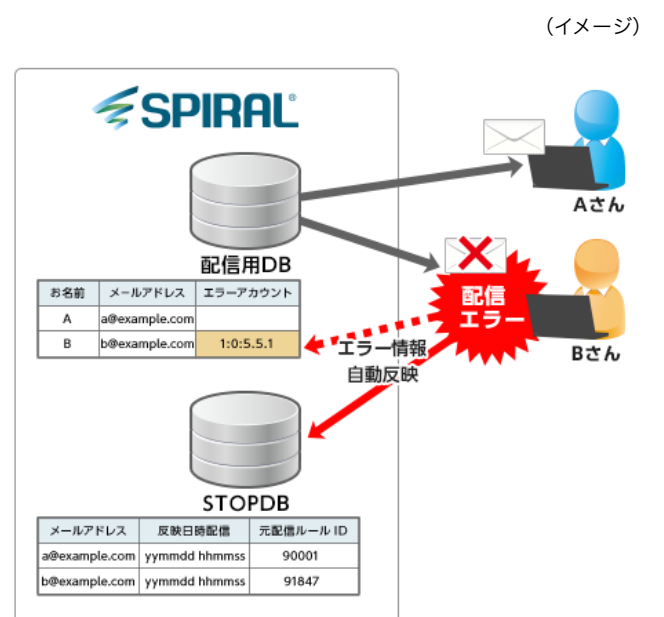
[http://www.pi-pe.co.jp/help/manual/ez\\_mail-err-reflect-file.pdf](http://www.pi-pe.co.jp/help/manual/ez_mail-err-reflect-file.pdf)



c) 配信エラーの情報をSTOPDBに自動反映させる

詳しくは、スパイラルオンラインヘルプマニュアルの「エラー情報をSTOPDBに自動反映する方法 (PDF)」をご確認ください。

[http://www.pi-pe.co.jp/help/manual/ez\\_mail-err-reflect-stopdb.pdf](http://www.pi-pe.co.jp/help/manual/ez_mail-err-reflect-stopdb.pdf)



## 4. 配信が強制中止された場合の再送方法

高エラー配信強制中止機能実装以降、配信が強制中止された際の再送方法についてご案内いたします。  
エラー情報を取得していることを前提とした方法となります。  
配信済みリスト（配信が強制中止されるまでに配信されたリスト）を除外した上で再送します。

### (1) STOPDBを利用し、再送する方法

スパイラルでは、自動的にエラーメンテナンスできる機能をご用意しております。  
スパイラルを使用して配信リストの管理を行っている場合、配信を行った際に発生した配信エラー情報を自動でデータベースに反映させることができます。  
また、配信エラーが発生しているメールアドレスに対しては配信を行わないようにすることができます。

1) STOPDBを作成します。 ●

- ① DBメニューをクリック
- ② STOPDB管理メニューをクリック
- ③ 新規作成ボタンをクリック
- ④ DB名、DBタイトル、キーフィールド、割り当てレコード数を入力
- ⑤ 新規作成ボタンをクリック

2) 通知メールから該当する配信情報を確認いただくか、管理画面のメールメニューのTOPの設定一覧から、ステータスが「高エラー配信強制中止」の配信設定を確認してください。

3) 当該配信の配信ログをダウンロードし、頭文字が『r』のファイルをエクセルなどで展開してください。

- ① DBメニューをクリック
- ② データ登録メニューをクリック
- ③ 登録手続きを開始ボタンをクリック
- ④ 登録（ヘッダー無データの登録）の対象DBで1)で作成したDBを選択
- ⑤ 登録の種類は新規登録を選択
- ⑥ アップロードへ進むボタンをクリック
- ⑦ 貼付けアップロードメニューをクリック
- ⑧ 3)で展開したデータのメールアドレスをすべてコピーし、貼付けアップロード画面に貼付ける
- ⑨ アップロードボタンをクリック
- ⑩ アップロードファイル情報画面にて情報を確認し、続けて登録に進むボタンをクリック
- ⑪ フィールド指定画面にてフィールドとデータを紐付けし、ファイル検査へ進むボタンをクリック
- ⑫ ファイル検査結果画面にて情報を確認し、DB検査へ進むボタンをクリック
- ⑬ DB検査結果画面にて情報を確認し、新規登録するボタンをクリック
- ⑭ 操作を終了して登録手続き一覧に戻るをクリックし、登録が完了

4) 1)で作成したSTOPDBに3)で展開したデータのメールアドレスのデータを登録します。 ●

5) 配信が強制中止された配信設定を呼び出し、STOPDBを適用の上再送します。 ●

- ① メールメニューをクリック
- ② 配信が強制中止された配信の設定ボタンをクリックし、設定を呼び出す
- ③ 配信リスト設定のSTOPデータベースにて、1)で作成したDBを選択
- ④ 件名や文面などが再送したい内容かを確認
- ⑤ 時間指定もしくはすぐに配信したい場合はマニュアルを選択し、スタンバイは「OK」を選択
- ⑥ 試算ボタンをクリックし、配信可能件数が想定している配信数か確認
- ⑦ 新規に予約ボタンをクリック



## (2) DBにフラグを立てた上で再送する方法

1) 配信が強制中止されたDBに対して、配信済みリストを除外するための項目（フィールド）を追加します。

2) 通知メールから該当する配信情報を確認いただくか、管理画面のメールメニューのTOPの設定一覧から、ステータスが「高エラー配信強制中止」の配信設定を確認してください。

3) 当該配信の配信ログをダウンロードし、頭文字が『r』のファイルをエクセルなどで展開してください。

4) 配信ログのメールアドレスの列以外すべて削除し、一番最後の列に1を追加してください。

(イメージ)

	A	B	
1	test@aaa.co.jp	1	
2	test@bbb.co.jp	1	
3	test@ccc.co.jp	1	

5) 1) でフィールドを追加したDBのデータを更新します。

6) 配信が強制中止された配信設定を呼び出し、抽出ルールを作成の上再送します。

- ① DBメニューをクリック
- ② 通常DB管理メニューをクリック
- ③ あなたが作成したDB一覧から該当するDB名をクリック
- ④ 設定の変更またはフィールドの追加・削除ボタンをクリック
- ⑤ フィールドタブをクリックし、画面左のフィールドタイプから「ブーリアン」を選択
- ⑥ 末尾に追加ボタンをクリックし画面右のフィールド構成一覧に追加（もしくはダブルクリックにて追加）
- ⑦ 追加したフィールド名を適宜変更する
- ⑧ 保存ボタンをクリック

- ① DBメニューをクリック
- ② データ登録メニューをクリック
- ③ 登録手続きを開始ボタンをクリック
- ④ 登録（ヘッダー無データの登録）の対象DBで1) でフィールドを追加したDBを選択
- ⑤ 登録の種類は更新を選択
- ⑥ アップロードへ進むボタンをクリック
- ⑦ 貼付けアップロードメニューをクリック
- ⑧ 4) で作成したデータ2列分をすべてコピーし、貼付けアップロード画面に貼付ける
- ⑨ アップロードボタンをクリック
- ⑩ アップロードファイル情報画面にて情報を確認し、続けて登録に進むボタンをクリック
- ⑪ フィールド指定画面にてフィールドとデータを紐付ける  
更新キー：メールアドレス、1) で追加したブーリアンフィールド：1の列を紐付ける
- ⑫ ファイル検査へ進むボタンをクリック
- ⑬ ファイル検査結果画面にて情報を確認し、DB検査へ進むボタンをクリック
- ⑭ DB検査結果画面にて情報を確認し、更新するボタンをクリック
- ⑮ 操作を終了して登録手続き一覧に戻るをクリックし、更新が完了

- ① メールメニューをクリック
- ② 配信が強制中止された配信の設定ボタンをクリックし、設定を呼び出す
- ③ 配信リスト設定のデータベースの抽出ルールの編集ボタンをクリック
- ④ ■ フィールド毎の抽出ルール設定にて、1) で追加したブーリアンフィールドの編集ボタンをクリック
- ⑤ 抽出ルール名を適宜入力し（例：フラグが立っている人を除外）
- ⑥ ■フラグで抽出は「フラグが立っているもの」を選択し、「以外を抽出する」を選択し、新規作成
- ⑦ ④の画面に戻り、抽出ルール名を入力
- ⑧ ⑧ブーリアンフィールドの抽出ルールで作成したルールが適用されているかを確認
- ⑨ ⑨試算ボタンをクリックの上、想定数かを確認し新規作成ボタンをクリック
- ⑩ ②の画面に戻り、件名や文面などが再送したい内容かを確認
- ⑪ 時間指定もしくはすぐに配信したい場合はマニュアルを選択し、スタンバイは「OK」を選択
- ⑫ 試算ボタンをクリックし、配信可能件数が想定している配信数かを確認
- ⑬ 新規に予約ボタンをクリック

## 5. 配信が強制中止された場合の再送方法 ～エラー情報を取得していない場合～

エラー情報を取得していない場合、前記の通り配信済みリスト（配信が強制中止されるまでに配信されたリスト）を除外した上で、さらにリストを分割し、配信時間を分散した上でゆっくりした配信を一度行い、エラー情報を確定させてください。そのエラー情報をもとにエラーメンテナンスを行った上で一斉配信が可能となります。  
具体的なリスト分割数、配信の分散時間に関しては配信の要件によって異なるため、ユーザーズデスクにご相談ください。

### (1) リスト分割について

データベースに格納されているデータを、抽出ルールを用いて分割し、抽出ルールごとに配信設定を設定します。

1) DBオペレーションにて登録されているデータのIDの最小値と最大値を確認してください。

- ① DBメニューをクリック
- ② DBオペレーションメニューをクリック
- ③ 配信対象DBの表示をクリック
- ④ 検索条件クリアした上で検索結果一覧タブをクリック
- ⑤ 登録されているIDの最小値を確認
- ⑥ 検索結果のソートのプルダウンを昇順から降順に変更
- ⑦ 登録されているIDの最大値を確認

2) 分割数分の抽出ルールを作成してください。

- ① DBメニューをクリック
- ② データベースの抽出ルール設定メニューをクリック
- ③ 配信対象DBを選択
- ④ 抽出ルール名を設定
- ⑤ IDによる抽出範囲設定にチェックを入れ、
- ⑥ IDの最小値と最大値から分割数を計算の上、IDによる抽出範囲を指定
- ⑦ 新規作成をクリック ※分割数分の抽出ルールを作成

3) 配信が強制中止された配信設定を呼び出し、STOPDBを適用、抽出ルールを適用の上再送します。

- ① メールメニューをクリック
- ② 配信が強制中止された配信の設定ボタンをクリックし、設定を呼び出す
- ③ 配信リスト設定のデータベースの抽出ルールにて、作成した抽出ルールを選択
- ④ 配信リスト設定のSTOPデータベースにて、作成したDBを選択
- ⑤ 件名や文面などが再送したい内容かを確認  
時間指定で配信時間を分散し、  
スタンバイは「OK」を選択
- ⑥ 試算ボタンをクリックし、配信可能件数が想定している配信数か確認
- ⑦ 新規に予約ボタンをクリック ※分割数分の配信設定を作成